

「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

研究指定校名 : 米子市立五千石小学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立五千石小学校
学級数	8学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全児童数：143人（平成30年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/gosen-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区研究主題】

豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成
～連携を重視した魅力ある校区づくりをめざして～

【本校研究主題】

主体的に学び、仲間とともにめあてに向かって自ら問題解決をする子の育成
～肯定的集団づくりと学び合いのある授業づくりを通して～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校を含む尚徳中学校区では、平成24・25年度に「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立教育政策研究所）、平成26・27年度には「小中連携で取り組む授業改革ステップアップ事業」（鳥取県）の指定を受け、すべての児童生徒を対象として、自尊感情を高めるための授業づくりや集団づくりを中心に、1中学校と3小学校が連携しながら取り組んできた。

平成28年度の本校は、それまでの成果を踏まえて“仲間づくり”を基盤とした研究を進めていった。その結果、定期的に行っている「自尊感情アンケート」で、「学校が楽しい」（肯定的評価78%→85%）、「自分は誰かの役に立っている」（同67%→71%）と答える児童の割合が増えている。しかし、「計画を立てて、進んで家庭学習をする」（同73%→72%）、「授業に主体的に取り組んでいる」（同85%→80%）という項目には落ち込みが見られ、学習意欲や基礎学力の低さのために学びから逃げたり、自分に自信がもてず自尊感情の低下につながっていたりする児童もまだ見られることが課題となった。

平成26年度から、児童が主体的に授業に参加し、友達と関わり合いながら問題解決をする学習を目指して、問題解決的な学習展開が分かりやすい算数科を先導教科として、ノートを活用した問題解決的な学習スタイルをつくり、実践を重ねることで、どの学習にも意欲的に取り組む児童をさらに増やしていこうと取り組んできた。

また、学習を支える学級の肯定的集団づくりを目指して、肯定的に関わる場面を生み出しやすい体育的活動（体育科の授業、遊び、朝活動など）・特別活動を中心に、友達と関わり合う場・学び合う場を位置づけ、互いのよさに気づき、認め合う肯定的集団づくりの研究を進めてきた。

併せて、人権が尊重される社会づくりの担い手として主体的に問題解決をしていこうとする態度の育成を目指し、人権についての教育の年間指導計画（総合的な学習の時間・学級活動・道徳・社会科等）を再構築しながら、友達と関わり合いながら主体的に課題解決する授業づくりの研究を進めてきた。

特に今年度は、11月開催の米子市中学校区人権教育研究発表会に向けて、これまでの研究の成果を土台にした「豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成～連携を重視した魅力ある校区づくりをめざして～」という研究主題を設定し、中学校区の小中学校で関わり合いや学び合いを通して自他を尊重する態度の育成を推進していくことを共通理解した。

このような実態と校区研究主題を受け、本校では「主体的に学び、仲間とともにめあてに向かって自ら問題解決をする子の育成～肯定的集団づくりと学び合いのある授業づくりを通して～」という研究主題を設定し、体育的活動・特別活動と算数科を中心に学級経営の充実を図り、肯定的集団づくりを目指すとともに総合的な学習の再構築を進めていくこととした。安心して自分の思いが言い合え、認め合い、励まし合える仲間づくりを人権教育の基盤とするとともに、問題解決的な学習の充実を図り、学ぶ楽しさや、やりとげた喜びを実感させる中で児童の自尊感情の高まりへとつなげていきたいと考えた。

研究の仮説

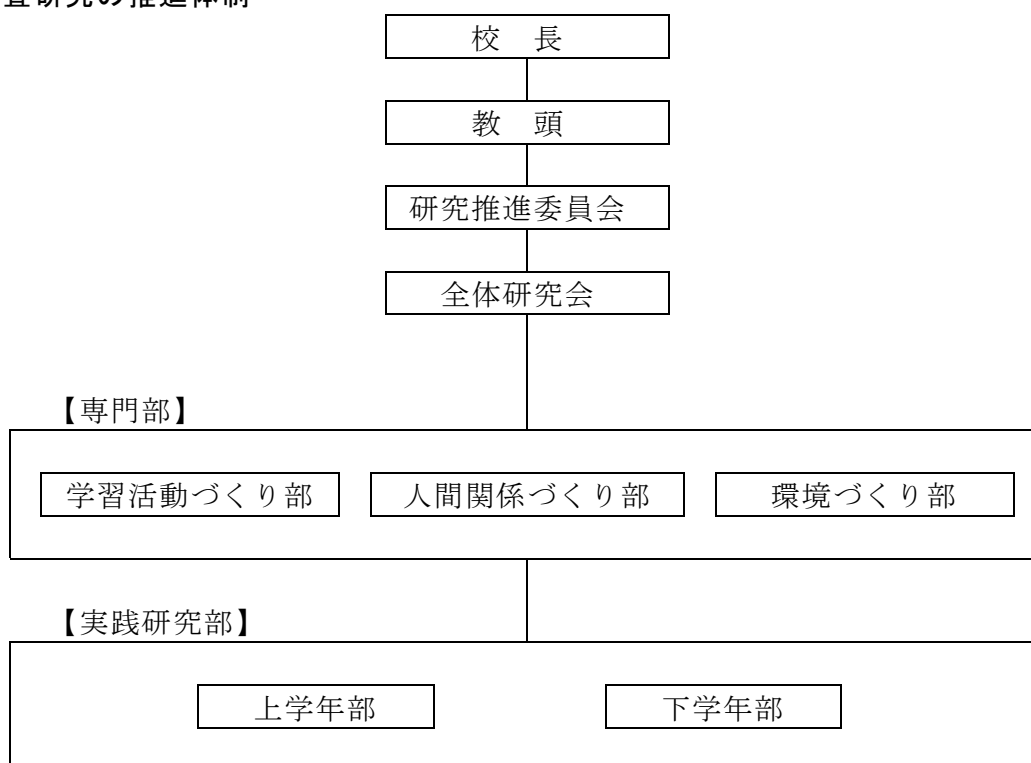
【仮説1】

体育的活動等の中で、友達と関わり合い学び合う場を位置づければ、互いのよさに気づき、認め合う肯定的集団づくりへとつながるであろう。

【仮説2】

友達と関わり合いながら、主体的に課題を解決する授業展開を行えば、児童は学び方を身につけ、主体的に問題解決をしようとする児童を育てることができるであろう。

3. 調査研究の推進体制



《関係協力機関》

- 鳥取県教育委員会
- 米子市教育委員会
- 尚徳中学校区人権・同和教育推進協議会
- 米子市人権・同和教育推進協議会学校教育部会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

〈調査研究の内容〉

①意識調査・実態調査の実施

ア 校内共通調査

- ・校区小・中学校で実施した「学習状況アンケート」「自尊感情アンケート」の結果から、成果と課題を分析した。

イ 本校調査

- ・「児童アンケート」「保護者アンケート」を分析し、研究の評価を行った。

②授業研究

ア 体育、学級活動、総合的な学習の時間について授業研究会を実施し、教育委員会等の指導助言により指導力の向上をめざした。

イ 指導内容及び指導方法の研究と教材の開発を行った。

③部会ごとの取組

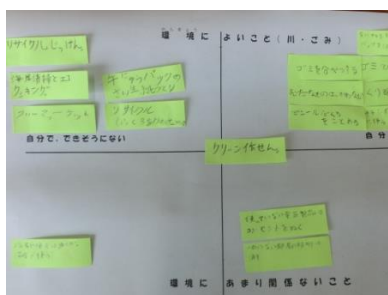
ア 学習活動づくり部会

- ・めあてとまとめを関連させた問題解決的な授業展開の在り方を研究した。
- ・「学び合いのある授業」がめざす姿を明確にし、関わり合いながら学びを深める授業スタイルの確立を図った。 例：思考ツールを活用した学習（資料①）
- ・学び合いを支える学習規律（相手にはっきり伝える話し方、反応を伴った話の聞き方、分からないことが言える雰囲気等）の徹底を図った。
- ・総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習になるような指導方法を工夫し、協同的・能動的に学ぶ態度の育成を図った。
- ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習状況把握のためのチェックリスト」（資料②）等の活用方法、評価方法について研究した。

(資料①) 学習の様子



思考ツール



(資料②) 家庭学習状況把握のためのチェックリスト

11月 家庭学習カード											
月	火	水	木	金	土	日	合計				
6	7	8	9	10	11	12	合計				
13	14	15	16	17	18	19	合計				
							合計				

☆「読・習・写・算」ができたら○をつけます。
 ☆ 全ての学習時間を書き入ります。
 ☆ 1日70分(5年×10分+10分)。
 週の合計時間の目標時間は、480分です。

今月をふりかえって

イ 人間関係づくり部会

- ・学級経営における体育的活動の役割を検討し、肯定的集団づくりに向けての方策を研究、提案した。



- ・朝の会や帰りの会での認め合い活動を活用した学級づくりを工夫改善し、子どもたちの自己有用感を高めた。
- ・特別活動を充実させ、豊かな人間関係の形成を目指すとともに、自治的態度の育成を図った。

- ・「自尊感情アンケート」を分析して成果と課題を明らかにし、改善に向けた具体的方策を検討、実施した。



ウ 環境づくり部会

- ・日常の生活の様子やアンケートから、学校、家庭における児童の生活実態と課題を明らかにし、家庭への啓発活動やメディアコントロールウィークの活用などにより基本的な生活習慣の確立を図った。
- ・地域ボランティアを招いての学習、校区小・中学校と連携した活動等、様々な立場の人との交流（資料③）が図れる人的環境づくりを行った。

（資料③） 高齢者福祉施設

保育園



- ・校内掲示、ペア学年でのメッセージ交換、委員会による放送や集会での紹介等、児童が肯定的な言葉をかけ合える場づくりに努めた。

〈実施日程〉

時期	内容	備考
4月6日	研究推進委員会（研究の方向、仮説、研究内容の検討）	研究推進委員
4月12日	全体研究会（研究内容の検討・決定）	全職員
4月13日	第1回人権教育研究推進事業連絡協議会	研究主任
4月26日	全体授業研究会 5年体育 指導者 石田教諭	全職員
4月26日	部会研究会（部会の取組内容の検討）	全職員
5月10日	中学校区教育推進協議会（校区共通実践について）	中学校区全職員
5月24日	全体授業研究会 4年総合 指導者 後藤教諭 6年総合 指導者 遠藤教諭 指導助言者 西部教育局 奥田和弘係長 県教育委員会人権教育課 西垣卓宏指導主事	全職員
5月31日	全体授業研究会 1年体育 指導者 青山教諭・廣江教諭 2年生活 指導者 藤井教諭 指導助言者 米子市教育委員会 西村健吾指導主事 県教育委員会人権教育課 西垣卓宏指導主事	全職員
6月7日	全体研究会（第1回Q-U調査分析）	全職員
6月21日	校内部会研修会（取組の具体化）	全職員

6月28日	全体授業研究会 3年総合 指導者 上坂教諭・中林教諭 5年総合 指導者 石田教諭 指導助言者 西部教育局 奥田和弘係長	全職員
7月12日	全体研究会（1学期の取組の振り返り）	全職員
7月27日	中学校区教育推進協議会授業研究会(キッズタウンさくら)	2名
7月27日	中学校区教育推進協議会（共通教材の確認，見直し）	全職員
8月3日	人権尊重社会実現に向けた鳥取県研究集会参加	1名
8月7日	校内部会研修会（研究会配付資料作成）	全職員
8月30日	全体研究会（今後の取組について）	全職員
9月20日	全体授業研究会 ひまわり学級総合 指導者 福原教諭 つつじ学級自立 指導者 臼井教諭 指導助言者 県教育委員会人権教育課 西垣卓宏指導主事 米子市立後藤ヶ丘中学校 青木直妃教諭	全職員
9月25日	全体研究会（全国学力調査結果分析）	全職員
9月28日	総合的な学習の時間 講師 村田静也 氏	
10月6日	先進校視察（千葉県八千代市立勝田台小学校）	3人
10月12日	人権学習 講師 梅林 緑 氏	
10月18日	校内全体研修（先進校視察報告）	全職員
10月25日	校内全体研修（研究発表会に向けての授業作り）	全職員
11月8日	全体研究会（第2回Q-U調査分析）	全職員
11月21日	研究紀要の印刷・配布	100冊配布 配布先：市内小学校参加者，教育委員会，関係諸機関
11月22日	校内全体研修（発表内容の確認）	全職員
11月29日	米子市中学校区人権教育研究発表会開催 指導助言者 西部教育局 奥田和弘係長 米子市教育委員会 西村健吾指導主事	参加者：62人
1月18日	米子市人権・同和教育研究集会（実践発表）	4人
1月24日	校内全体研修（教育反省，各種アンケート分析）	全職員
2月7日	校内全体研修（今年度の研究の振り返りと来年度に向けての取組について）	全職員
2月13日	第2回人権教育研究推進事業連絡協議会	研究主任
2月16日	研究のまとめ作成	全職員
2月21日	校内全体研修（来年度の研究について）	全職員

（2）調査研究の成果と課題

[成果]

○肯定的集団づくりについて

体育的活動を中心とした肯定的集団づくりや認め合い活動の充実を図ることで、互いを認め合い、支え合える学級づくりを進めてきた。体育的活動にとどまらず、他教科や日常生活の場面でも積極的に友達に関わろうとするようになっており、みんなで協力することの大切さや、みんなと一緒に活動することの楽しさを感じている児童が増えている。

【自尊感情アンケート】（平成29年度 肯定的回答の割合）

質問項目	1学期	2学期	1学期比
学校が楽しい	91%	97%	+6ポイント
みんなで何かするのは楽しい	89%	94%	+5ポイント

自分はだれかの役に立っている	71%	78%	+7ポイント
----------------	-----	-----	--------

【児童アンケート】（肯定的回答の割合）

質問項目	H29.1月	H30.1月	前年度比
自分にはよいところがある	75%	89%	+14ポイント
自分や友だちを大切に、だれとでも仲良く生活している	86%	89%	+3ポイント

【保護者アンケート】（肯定的回答の割合）

質問項目	H29.1月	H30.1月	前年度比
お子さんは、学校に行くのを楽しみにしている	94%	97%	+3ポイント

○主体的に問題解決する子の育成

協同的・能動的な学習を目指して学び合いのある授業展開を工夫したことにより児童間で意見交換する姿が多く見られるようになり、主体的に問題解決をしようとする児童が増えてきた。また、「家庭学習の手引き」や「家庭学習状況把握のためのチェックリスト」などの活用により、若干ではあるが家庭での学習習慣の定着を示す数値が上がっている。

【学習状況アンケート】（平成29年度 肯定的回答の割合）

質問項目	1学期	2学期	1学期比
家で計画的に学習していますか	72%	77%	+5ポイント

【自尊心アンケート】（平成29年度 肯定的回答の割合）

質問項目	1学期	2学期	1学期比
進んで家庭学習に取り組んでいる	73%	82%	+9ポイント
進んで授業に取り組んでいる	78%	84%	+6ポイント

【児童アンケート】（肯定的回答の割合）

質問項目	H29.1月	H30.1月	前年度比
みんなで考えたり話し合ったりして勉強をしている	90%	92%	+2ポイント

[課題]

○肯定的集団づくりについて

多くの児童が人と関わることに積極的になってきているが、自分の考えや思いを言葉で伝えることを苦手とする児童が多い。さらに肯定的な集団づくりを進め、適切な言葉によるコミュニケーションの能力や自分の思いを表現しようとする意欲を高めていくことが課題であると考えます。

【児童アンケート】（肯定的回答の割合）

質問項目	H29.1月	H30.1月	前年度比
自分の意見を進んで発表している	60%	66%	+6ポイント

○主体的に問題解決する子の育成

家庭での学習習慣について数値は上昇しているが、家庭状況により差が大きく、意欲的に取り組めていない児童も多い。今後、さらに家庭との連携を深め、個に応じた指導を工夫しながら生活習慣や基礎学力の定着に取り組んでいく必要がある。

【保護者アンケート】（肯定的回答の割合）

質問項目	H29.1月	H30.1月	前年度比
学校で使っているノートや連絡帳に目を通して	82%	74%	-8ポイント